第 18 期定期大会へ JGS 労組からメッセージを頂きました

日本航空ユニオン　御中

連帯メッセージ

日本航空ユニオンの皆さま、第 18 期定期大会のご盛会を心よりお祝い申し上げます。

安全運航を第一に日々の航空機整備をはじめ、働く社員の労働条件の維持・向上に全力で奮闘されている貴労組に対し、深く敬意を表するとともに、私たち GHU・JGS 労働組合へのご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

はじめに、令和８年熊本地震、令和８年千葉豪雨といった自然災害が発生し、尊い命が奪われ、家屋倒壊、家屋浸水など甚大な被害を生んでいます。亡くなられた方々のお悔やみと、被災された全ての皆さまに対し、お見舞いと一日も早い復旧・復興を願うものです。

さて、この一年間を振り返りますと、アメリカとイランの軍事衝突が新たに勃発し、これまでの物価高騰にも拍車をかける状況となっています。今回の中東情勢は私たち航空産業にも大きく影響するものです。あらためて、航空業界が平和産業であることを痛感いたしました。
私たち JGS では昨年 11 月に社長レター『未来を創る新たな変革に向けて』が発信され、政府が掲げる「訪日外国人 6,000 万人」という国家目標に向けた旺盛なインバウンド需要と 2029 年の成田空港の大規模拡張計画などを見据え、対応するべく事業再編が進められてきています。
2026 年 4 月 1 日から「羽田器材グループの業務を JAL エアテックに移管」「成田第 1 ターミナル北側のバゲージハンドリングシステム（BHS）の運行管理業務受託を解除」「ビルメンテナンス事業を JALUX トラストへ集約」されたのに続いて、10 月 1 日から羽田国内貨物郵便業務を JAL カーゴサービス(JCG)・JAL カーゴハンドリング（JCH）へ移管する計画が進められています。

JAL グループは、新たな成長戦略である「JAL グループ経営ビジョン 2035」を策定しました。環境変化を適切に捉え、持続的な成長を実現するため、2030 年度に EBIT3,000 億円、2035 年度には EBIT3,500 億円以上を目指すとしています。
昨今の労働人口減という問題もある中で、取り巻く環境は常に変化しています。
そのような中、私たち JGS グループでは社員の離職問題が大きな課題となっていますが、私たちの取り組むべきことに変わりはありません。
働く社員が安心して働き続けられるよう、グランドハンドリングの地位向上と空の安全を守っていきたいと考えています。

そのためにも私たち GHU と日本航空ユニオンをはじめ、JU 連絡会の皆さまとの連帯強化が求められています。
引き続き、皆さまと共に奮闘していく決意です。
結びに、本日の貴労組定期大会が実りのある大会となりますよう祈念し、連帯のメッセージとさせていただきます。

2026 年 9 月 3 日
GHU・JGS 労働組合 執行委員会一同

おまけ

航空連フェニックスビルでの大会風景

こくみん共済 coop
石川支所長



中央ろうきん
奥田支店長
担当眞田さん



対面形式の
定期大会の様子





大会後は
その場で交流会、そして表彰式…

佐藤委員長から退任の糸谷副委員長に永年功労賞の贈呈



一歩離れた所から、
見守ってください

斉藤前委員長に対し、佐藤委員長から
永世名誉委員長?就任状を贈呈



※永年功労賞は、中執・支部委員を通算 10 年以上継続して務めた役員に贈呈しています。斉藤さんは今回、永年功労賞の対象期間を満たしていないため、こちらの賞状のみの贈呈となりました。